

平成28年度 第1回小城市協働によるまちづくり検討委員会 議事録

開催日時：平成28年10月21日(金) 午後2時～午後3時25分

開催場所：小城市役所 西館 2階 大会議室

出席委員：五十嵐委員、井本委員、森永委員、中野委員、眞子委員、福地委員、
古賀委員、唐島委員、上瀧委員、島田委員、相浦委員、原委員、大野委員
大坪委員、光石委員、石橋委員、中島委員、西岡委員、赤松委員

事務局：江里口市長、大橋総務部長

(総務部 企画政策課)

熊谷企画政策課長、池田市民協働推進係長、山田主査

関係課職員出席者数：7名

議 事 録

午後2時 開会

1. 開 会

熊谷企画政策課長

皆さんこんにちは。本日は大変御多用の中、また足元がお悪い中、御出席くださいますありがとうございます。

ただいまから平成28年度第1回小城市協働によるまちづくり検討委員会を始めさせていただきます。

本日の進行につきましては、資料の御確認をいただきましたその資料に基づいて、次第に沿って進めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます企画政策課長の熊谷と申します。よろしくお願いいたします。

まず、この会の始まります前に、この検討委員会は26年度から設置しておりますので、もう内容をご存じの方ももちろんいらっしゃいますけれども、新しい委員さんもいらっしゃいますので、改めてこの会の設置目的を御説明させていただきます。

お手元の資料1、小城市協働によるまちづくり検討委員会設置要綱の第1条に、設置の目

的として、地域を基盤とするまちづくりやコミュニティ活動の方向性及びそれに基づく市の施策のあり方などについて検討するため、この委員会を設置するとなっております。

第2条に、検討していただく内容として(1)から(3)まで、地域におけるまちづくりの現状及び課題に関する事、地域コミュニティ組織の位置付けや役割及び体制に関する事、地域と行政との適切な役割分担のあり方、以上の3つについて協議を行ってもらうこととなっております。

第3条に、組織構成を明示しております。資料2には委員の皆様の名簿を添付しております。

そして第4条、委員の任期は2年とするということで、再任を妨げないとあります。皆様は本日より平成30年10月20日までの任期となっております。

続きまして第5条には、委員長、副委員長の選出についての規定があり、ページ裏面になりますけれども、第6条には、委員長が会議の議長となると規定をしております。

第7条、最後になりますけれども、この委員会の庶務は企画政策課において処理するということとなっております。

このような内容で会議を構成させていただきますので、御了承ください。

2.委員の委嘱（委嘱状の交付）

熊谷企画政策課長

それでは、次第の2番目になりますが、委員の委嘱状を交付させていただきます。

交付につきましては、それぞれ市長よりお渡しすべきところではございますが、時間の関係上、代表者1名の方に交付させていただきたいと思っております。

資料2の委員名簿で申し上げます。委員名簿の一番最初の方、佐賀大学教授の五十嵐勉先生に交付させていただきたいと思っております。五十嵐先生、前のほうにお進みください。

江里口市長

委嘱状。五十嵐勉様。小城市協働によるまちづくり検討委員会委員を委嘱します。

平成28年10月21日から平成30年10月20日までとします。

平成28年10月21日、小城市長江里口秀次。

お世話になります。よろしく申し上げます。

〔委嘱状交付〕

熊谷企画政策課長

ほかの委員の皆様には、机の上に既に委嘱状を差し上げておりますので、お納めいただきますようお願いいたします。

3. 市長あいさつ

熊谷企画政策課長

続きまして、江里口市長が挨拶を申し上げます。市長、よろしく申し上げます。

江里口市長

皆さんこんにちは。市長の江里口でございます。

今日は、平成28年度の第1回目の小城市協働によるまちづくり検討委員会ということで、本当にそれぞれの立場で、大変お忙しい中に御出席をいただきまして、まずもって御礼申し上げたいと思います。

先ほど委嘱状の交付をさせていただきましたけれども、また28年度もいろいろと御意見を聞きながらこの委員会を進めていきたいというふうに思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

先ほど司会のほうから話があったように、この委員会ですけれども、平成26年度からいろいろと話をさせていただいてきたということでございます。私も今年の6月ぐらいだったと思いますけれども、福岡のほうで一億総活躍・地方創生全国大会というのが福岡でありまして、まさにこの、それぞれの地方が当面する問題としての少子・高齢化、これがどんどん進行していっている中で、地方がいろいろと課題として持っている問題についていろんな事例や、またあるいは成功事例も含めてですけれども話がありました。

そのときに実は、この協働によるまちづくりというのが、それぞれ全国のいろんな地域で、本当に形は変わってもいろんな取り組みをされている話があったわけでございます。確かに、少子・高齢化というのが進行をしていくと、その地域でのなりわいといいますか生活、あるいはいろいろと仕事もそうですけれども、商業もそうですけれども、だんだんこれがその地域から姿を消していってしまう。そうすると今度はだんだん空き家がふえていくようになってしまう。そしてまた、ひとり親家庭というのもまただんだん増えていく、いろんな現象が今まさに加速している、そういうふうな状況になります。そしてまた、それぞれの地域の高齢化率もどんどん上がっていく状況になるわけですが、じゃ、そういったときに、そ

の地域が本当にどうすればしっかりコミュニティを形成しながらやっていけるのかということ、それに対していろんな取り組みをそれぞれの自治体がしているわけでございます。

今回の協働によるまちづくり検討委員会、今まで26年から話をされていく中で、やはり小城市の中においても、せめて小学校区単位ぐらいのまちづくり協議会等々をつくっていきながら、それぞれの地域を市民の皆さん方と行政と一緒にあってお互いに役割分担をしながら地域コミュニティを形成していくような活動をやっていくことが必要じゃないかなということに話はずっと進んできたというふうに私も聞いております。これは、非常に多岐にわたって考えていく必要があるかと思えます。いろんな分野、福祉・環境・教育、また、産業もありますし、そういった色々な分野分野を、しっかりとその地域の中でどう形成していくかということは非常に必要な課題じゃないかなと思えます。これを考えていきますと、何か非常に難しい話になっていくのではないかというふうに思っていますが、もうすでに例えば小学校区単位の協議会等を設立されている地域もあるわけですが、やっぱり時間がかかっているんですね。やっぱり3年ぐらいこういうふうな協議をしながら、お互いずっと話をしながら、少しずつ積み上げていきながら、やっぱりそういった組織をつくられている。そういう地域もあるわけでございますので、今日は、28年の第1回目の検討委員会でありますので、それぞれの専門の委員の皆さん方が、協働によるまちづくりの小城版としてどういうふうに形成していったらいいのかということ、それぞれの立場から御意見等々をいただきながら、そして、しっかりそういったものを組み合わせていきながら、地域づくりのコミュニティができるようなやり方を検討していただければというふうに思っておりますので、どうかよろしく願い申し上げたいと思えます。

ちょっとPRになりますけど、小城の歴史資料館のほうで、佐賀大学さんとの文化交流の一環として特別展「柴田花守と納富介次郎」が実は明日から始まります。今日は今から、開場式ということでございますので、私はそちらのほうへ行きますが、どうか、また時間があったら特別展を見に来ていただければなというふうに思っております。

皆さん方の本当にすばらしい意見の中で、この検討委員会が充実した内容となり、そして小城市の協働によるまちづくりがすばらしい方向にすすめるような御提言をいただけますことを心からお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。これからよろしく願います。

熊谷企画政策課長

市長はこれで退席をさせていただきます。

4.自己紹介

熊谷企画政策課長

続きまして、4番目、委員の紹介に入ります。

本来ならば、皆様にお一人ずつ挨拶ということですが、時間の関係上、事務局のほうで資料2の名簿順でお名前を読み上げさせていただきますので、簡単で結構ですので、一言御挨拶をその場でいただきたいと思います。

では、最初に1番目、上から行きます。学識経験者として、佐賀大学教授、五十嵐勉様。

五十嵐委員

五十嵐でございます。よろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

2番目、西九州大学副学長、井本浩之様。

井本委員

いつも小城市民の方々にはお世話になっております。今後ともまたお世話になることがあると思いますので、よろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

小城市区長連絡協議会会長、森永光俊様。

森永委員

森永でございます。よろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

公民分館長会、芦刈町分館長会副会長、中野淳二様。

中野委員

中野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

小城市民生委員・児童委員連絡協議会会長、眞子公敏様。

眞子委員。

眞子です。よろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

6番の小城市消防団の団長でいらっしゃいます秋丸様は、本日欠席という御連絡をいただいております。

続きまして、小城市地域婦人会常任理事、福地敦子様。

福地委員

福地です。よろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市老人クラブ連合会会長、古賀壽美様。

古賀委員

古賀でございます。よろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市PTA連絡協議会会長、唐島由晃様。

唐島委員

唐島です。どうぞよろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市青少年育成市民会議副会長、上瀧政登様。

上瀧委員

こんにちは。上瀧です。どうぞよろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市ボランティア連絡協議会会長、島田美和子様。

島田委員

島田です。どうぞよろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市体育協会理事、相浦守夫様。

相浦委員

相浦です。どうぞよろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市社会福祉協議会地域福祉推進係長、原勝治様。

原委員

原です。よろしくお願いたします。

熊谷企画政策課長

小城市小中学校校長会、芦刈観瀾校長、大野敬一郎様。

大野委員

こんにちは。小中一貫校芦刈観瀾校の大野と申します。どうぞよろしく申し上げます。

熊谷企画政策課長

続きまして、公募委員として、牛津まちづくり協議会、大坪武裕様。

大坪委員

こんにちは。大坪です。よろしく申し上げます。

熊谷企画政策課長

同じく公募委員、NPO法人天山ものづくり塾、光石隆憲様。

光石委員

光石です。どうぞよろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会、石橋裕子様。

石橋委員

石橋です。よろしくお願いいたします。

熊谷企画政策課長

NPO法人つなぎレンガ座、中島正人様。

中島委員。

中島です。よろしく申し上げます。

熊谷企画政策課長

NPO法人ようこそ小城、西岡明樂様。

西岡委員

西岡です。よろしく申し上げます。

熊谷企画政策課長

おかえりや、赤松貴子様。

赤松委員

失礼します。赤松と申します。よろしく申し上げます。

熊谷企画政策課長

事務局ですが、私、企画政策課長の熊谷と申します。よろしくお願いします。

池田市民協働推進係長

担当の企画政策課市民協働推進係長をしております池田といいます。よろしくお願いします。

熊谷企画政策課長

席を外しておりますが、市民協働推進係員として山田がおりますので、よろしくお願いいたします。

5. 委員長・副委員長選出

熊谷企画政策課長

続きまして、次第5番目の委員長・副委員長の選出にまいりたいと思います。

設置要綱に、会に委員長・副委員長を置くとなっておりますが、この会自体は平成26年度から設置しております。その時から委員長をしていただいております五十嵐先生に、事務局のほうとしては引き続き委員長をやっていただきたいと。そして、副委員長には区長連絡協議会の会長の森永様にやっていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、委員長と副委員長のお二方、すみません、前のほうに席を移動していただけますでしょうか。

移動されている間を使いまして、ここで皆様に御了解とお願いです。

この会議は、広く市民の方にお伝えするという意味も込めまして、会議の内容、結果の公開について、議事録を作成いたしまして、委員の皆様にチェックをしていただいた上でホームページに公表したいと思っております。また、会議の風景、様子を写真撮影させていただきホームページ等に掲載させていただきたいと思っておりますので、どうぞ御了承ください。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

熊谷企画政策課長

では、よろしくお願いいたします。

6. 委員長・副委員長あいさつ

熊谷企画政策課長

6 番目、委員長・副委員長のあいさつをお願いしてよろしいでしょうか。

五十嵐委員長

どうも委員長職を拝命いたしました佐賀大学の五十嵐でございます。

この協働によるまちづくりの検討委員会、26年度から始まったというふうに先ほど紹介がありました。先ほど市長からも話がありましたように、この種の委員会というのは大変時間がかかる、要は住民の方々、市民の方々に広く理解をしていただくということで、かなりの時間を要するというので、ある意味、委員会では同じような議論が繰り返されたり、なかなか議事が進まないようなことがあり得ますけれども、委員長として円滑に議事が進むように努力をさせていただきますので、どうぞよろしく御協力をお願いいたします。

森永副委員長

皆さんこんにちは。先ほど御紹介いただきました区長会の森永と申します。

副委員長は従来から区長会がしているとのことでございますので、今回引き受けたわけでございます。

そういうことで、私も今回、新任の委員ということでございますけれども、いろいろ皆さん方の御指導、手助け等いただきながらやっていきたいというふうに思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

熊谷企画政策課長

ありがとうございます。

それでは7 番目、議事に入ります。

これからの議事に関しては、委員長が議長ということになっておりますので、五十嵐委員長様よろしく願いいたします。

7. 議 事

(1) 小城市協働によるまちづくり検討委員会での検討内容について

五十嵐委員長

それでは、早速議事に入らせていただきます。

お手元の議事次第に従って進めさせていただきます。

議事の1番目、「小城市協働によるまちづくり検討委員会での検討内容について」ということで、今日は第1回目ということでもございますし、継続委員の方と新しく委員になられた方おられますので、今日の1回目は、どちらかという今までの経緯について確認をするちょっとした勉強会というような位置づけになるのかなと認識をしております。

まずは、この議事の1、検討委員会での検討内容につきまして事務局のほうより説明をいたします。よろしくお願いいたします。

池田市民協働推進係長

それでは、議事の1番目、「小城市協働によるまちづくり検討委員会での検討内容について」、資料3-1から3-3で説明をしたいと思います。

資料3-1をご覧ください。

検討内容の説明をする前に、小城市の人口から見た現状と小城市総合計画での協働によるまちづくりの位置づけをお話ししたいと思います。

1ページめくってもらって、2ページ目をごらんください。

今年度からこの様な資料を使って、人口の状況について各地区の区長会で同じように説明をしてきています。

まず、このグラフは小城市全体の人口と年齢別の人口の推移をグラフにしたものです。

表の左から3番目、2015年、平成27年以降、一番右のほうになりますけれども、2040年までは、国立社会保障・人口問題研究所という機関がありまして、今後どういうふうに人口が推移されていくのかを推計されています。

一番上の青色のラインが総人口です。2010年、平成22年になりますけれども、4万5,000人以上あった人口が、今から約25年後の2040年には約3万7,000人と、全国的にも言われていますが、小城市でも人口が減少していくと推計されています。

次の緑色のラインは生産年齢人口、15歳から64歳の人口です。今から25年後に向けてぐっと少なくなり、2万人を割ると推計をされています。

一番下の赤色のラインは年少人口、0歳から14歳の人口です。こちらも減少していきます。

しかし、人口が減少する中で、下から2番目の紫色のライン、老年人口、65歳以上の人口は増加していきます。

次のページ、3ページをごらんください。

これは年少人口、生産年齢人口、老年人口の割合、率で示していますが、その推移をグラ

フにしたものです。

真ん中の紫色のラインは老年人口、65歳以上の人口の割合です。このグラフで見るとよくわかると思いますが、2015年、4人に1人が65歳以上でしたが、2035年、今から約20年後には3人に1人が65歳以上になると推計をされており、全国同様、小城市においても高齢化が進んでいきます。

1ページめくってもらって、4ページをごらんください。

今までは小城市全体の人口を見てきましたが、このグラフは小学校区別の年齢別人口割合です。今までは国勢調査ベースでしたけれども、こちらは住民基本台帳に基づいた集計になります。赤の棒グラフが2005年、平成17年3月末、合併した年になります。緑色の棒グラフが2015年、平成27年3月末現在です。

上のグラフから順に、年少人口、生産年齢人口、老年人口の割合です。どの地区も平成17年から平成27年、赤の棒グラフから緑の棒グラフへと少子・高齢化が進んでいることがうかがえます。しかし、地区によって人口の構成の違いがあることもわかるかと思えます。

例にとってみると、三里地区はどの地区よりも年少人口の率が低く、高齢化が進んでいます。しかし、三日月地区では高齢化より子供の数が多いいことが見てとれます。その地区地区によって、高齢化や子育て、それに伴う課題も違ってくるということが言えるかと思えます。

次のページ、5ページをごらんください。

この地図は、左が2005年、平成17年3月末、合併した時と、右は2015年、平成27年3月末の高齢化率を色分けして小城市の地図に落とししたものです。ちょっと見にくいのですけれども、小城市全体のイメージとして見てください。

高齢化率、65歳以上が人口に占める割合ですけれども、赤色は35%以上の行政区です。左の平成17年は赤色の行政区は11ありますが、右の平成27年は赤色の行政区が45あります。小城市内全体には180行政区がありますので、45というと4分の1の行政区が高齢化率35%を超えているということになります。また、そのうち高齢化率が40%を超えている行政区は、45のうち半数近くの22あります。

地域別で見ると、山間部や周辺部で高齢化が進んでいるように見えますけれども、小城市町の中心部、牛津町の中心部でも高齢化率が35%以上の赤色の行政区が目立っています。

1枚めくってもらって6ページをごらんください。

こちらは年少人口の比率です。赤色が子どもの数が少ない5%未満の地区です。黄色が5

から10%、薄いオレンジ色が10から15%、紫色が15から20%、水色が20から25%、緑色が25%以上です。紫色がオレンジ色に、オレンジ色が黄色へと少子化が進んでいることがうかがえます。このように、小城市でも確実に少子・高齢化が進んできています。

次のページ、7ページをごらんください。

これは小城市の人口ピラミッドです。団塊の世代の人口は多いのですが、団塊ジュニアの世代の人口がちょっと少ないように感じます。そして、団塊世代の孫になると思いますが、15から19歳の人口は多くなっていますが、20代になると就職、結婚により転出されているのか、急激に人口が、特に男性のほうで人口が減少しています。

簡単にですが、小城市を人口の視点で見てきました。やはり全国的にも言われていますが、小城市でも少子・高齢化が進んでいます。

1枚めくってもらって、8ページをごらんください。

こちらは小城市の最上位計画である総合計画における協働の位置づけです。こちらは、平成24年度から28年度が計画期間の第1次小城市総合計画後期基本計画の35ある施策の中に「市民と行政との協働体制の確立」があり、6つある重点施策の一つになっています。

基本事業として4つ挙げていますが、この「協働のルール・仕組みづくり」の取り組みの一つとして、協働によるまちづくりに取り組んでいます。

次のページ、9ページをごらんください。

これは、平成28年度で1次の計画が終了することに伴い今年度作成していますが、第2次小城市総合計画です。計画期間は平成29年度から33年度となります。その中での位置づけは、33ある施策の一つとして「協働のまちづくりの推進」を挙げており、検討委員会にかかわるものとして、基本事業「地域の自治機能向上の推進」があります。今後5年間でコミュニティや住民自治に関する情報を広く市民や団体に提供し、市民のコミュニティ意識を高め、自主的な地域活動への参加を促します。そして、地域の課題解決に向けた新たな仕組みづくりを進めていきます。

1枚めくってもらって、最後のページをごらんください。

小城市の協働によるまちづくりの推進体制を図にしたものです。左のほうは庁内体制です。市長を本部長として「市民協働推進本部」を設置し、副本部長を副市長、委員は教育長、各部長で、協働によるまちづくりに関する総合的な事項を取り扱っています。その下に地域との協働によるまちづくりを推進していくため、「地域との協働体制庁内検討委員会」を設置

しています。委員長を総務部長、委員を各課長として、協働によるまちづくりの推進に関すること、地域コミュニティ施策の方向性に関することを協議しています。また、その中に企画政策課長を部長に作業部会を設置し、庁内体制を整備しています。

本日、後方に作業部会の皆さんにも参加をしてもらっています。

図の右のほうになります。こちらが今回お集まりいただいている検討委員会です。学識経験者、市内の各種団体の代表、公募委員で構成される協働によるまちづくり検討委員会を平成26年度に設置し、地域コミュニティのあり方、地域と行政の適切な役割分担のあり方を検討していただいています。

これまで検討委員会で検討してきた内容ということで、資料3-2をご覧ください。

平成26年度に検討委員会を設置したという話をしていますが、平成26年度は12月、2月、3月の3回検討委員会を開催しています。2月には先進地視察ということで佐賀市金立まちづくり協議会や川上校区まちづくり協議会のお話を聞いています。また、26年度の1月から2月にかけて協働によるまちづくりに関する市民アンケートを行っています。

27年度には4月から5月にかけて行政区の区長さんや各種団体にアンケートを実施し、年度内に検討委員会を7回開催しています。1回目を5月22日、2回目の7月6日には福岡県大野城市に先進地視察に伺っています。7月30日には検討委員会の中で「協働のまちづくりをみんなで考えよう！」ということで委員の皆さんにワークショップの体験をしてもらっています。8月24日にはアンケートの分析、課題の整理を行いました。10月16日には、実際に地域で未来を考えるワークショップをやってみようということで、三里地区で協働によるまちづくりのワークショップを開催しています。以上のアンケート、先進地視察、ワークショップを踏まえて、10月30日・11月20日には、28年度以降の協働によるまちづくりに向けて協議をしていただき、「協働によるまちづくりのリーフレット」を作成しております。

資料3-3、厚めの紙になりますけれども、こちらがリーフレットになります。

表紙をめくってもらって、まず、なぜ協働によるまちづくりが必要なのかということですが、先ほど小城市の人口の推移を見たように、小城市でも少子・高齢化、人口減少が進み、混住化が進んできています。地域の連帯感・意識が希薄になっている地域も見られるかと思っています。そういった中で、市民の皆さんの価値観やライフスタイル、ニーズが多様化してきています。また、国・地方ともに財政状況が厳しくなっているというのがあるかと思っています。

小城市では、平成26年度に市民アンケートを実施していますが、その結果、また検討委員

会の意見から小城市の課題を挙げています。地域イベントへの参加者が少ない、市民協働意識を高める必要がある。人口減少・高齢化により行政区単位での活動が縮小してきており行政区の単位を超えた地域での活動が必要になってきている。また、さまざまな団体が活動されているが、活動内容がわからない。「地縁団体」、古くからある地元の活動されている団体で、自治会や婦人会、老人クラブ、消防団、PTAのことを言います。「志縁団体」、ボランティア団体、市民活動団体のことを言いますが、その地縁団体と志縁団の連携を強化していく必要がある。また、役員のなり手がいないため、担い手・人材を育成する必要があるというような意見がありました。

このような状況を踏まえて、左の下の方になりますが、これからのまちづくりは「行政主導・市民参加」から、「市民主体・市民と行政との協働」という考え方が必要となっています。

次のページですが、目指す将来像として、行政区（自治会）の範囲を超える一定の地域を基本として、自治会、消防団、PTA、老人クラブなど各種団体で構成する仮称ですが「まちづくり協議会」、先程のあいさつで市長も申しましたが、単位はおおむね小学校区を想定し、その「まちづくり協議会」で地域課題を解決していくとともに、地域の魅力を活用して地域活性化に向けた取り組みを行い、「住民主体のまちづくり」、「協働によるまちづくり」を進めていくことが必要です。

下の図は、まちづくり協議会（仮称）のイメージです。おおむね小学校区単位でまちづくり協議会が設立され、市役所と連携をしていくというようなイメージです。まちづくり協議会の構成員・団体は、下の青色の枠の中になりますが、その地区、小学校区単位とお話していますが、小学校区の中で活動をされている団体、自治会・婦人会・消防団・市民活動団体など例を挙げていますが、その他にも様々な団体が考えられると思います。また全ての地域住民が構成員になります。その中で地域課題に対応した部会をつくり、自分たちのまちのことを考え、住民自らが行動に移していくというようなイメージになるかと思います。

最後のページですけれども、これをどうやって進めていくのかですが、漠然として分かりにくいところもあると思いますが、実践例として記載しています。まず、自分たちの地域のことを考えていきたいと思う地区で勉強会等を実施して、皆で今後の地域のことを考えていこうと機運が盛り上がったところで、まちづくり協議会設立の準備会を立ち上げてもらう。地域の皆さんを対象にしたワークショップ等を繰り返し、地域の魅力や課題などの洗い出し、

地域の目標を立てる。その目標の実現に向けて活動内容を検討していく。ワークショップの内容については、先ほど地域住民の皆さんが協議会の一員という話をしましたが、話し合いの内容を随時お便り等でお知らせし、参加意識を促していく。また、ワークショップを繰り返す中で、まちづくりの計画・プランを作成して、計画を推進していくための組織、まちづくり協議会を設立し、住民主体のまちづくりを進めていくという流れになるかと思います。このリーフレットは検討委員会の中で検討してもらい、今後の協働によるまちづくりの進め方を示した内容となっています。

以上で議事の1番目の「小城市協働によるまちづくり検討委員会での検討内容について」説明を終わります。

五十嵐委員長

ただいまの説明につきまして御不明な点、御質問、あるいは御意見等承りたいと思います。何でも自由に御発言をお願いしたいと思います。

市が設置している検討委員会ですから、何か堅苦しいイメージがありますが、ざっくばらんに自由に何でも発言していただくという進行を私進めさせていただきますので、何でも結構です。人口のところはどうですか。何となく頭ではわかっていることでも、こういう風に数字で出されるとそれなりに考えがあらうかと思います。ショックを受けられたか、こんなもんか、いや、小城はまだ大丈夫かと、何かいろんな感想もあらうかと思いますが、いかがでしょうか。御質問ございませんか。井本先生お願いします。

井本委員

これはまち・ひと・しごとというか、地方創生の分の出生率を上げるとかいろんな目標があるけど、それは反映されていないですか。目標値とか定めたでしょう、市町で。

熊谷企画政策課長

この数字には、まち・ひと・しごとの出生率を反映した数字、この成り行き値に関しては反映をさせていません。

井本委員

前のままですか。

熊谷企画政策課長

はい。これをどうしていくかというところで、まち・ひと・しごとで人口ビジョンをつくっておりますが、40年後ぐらいにこの3万7,000人ぐらいを目指すということになってお

りますので、これは25年後、成り行きのみままでいくと、これくらいではないかという推測になります。以上です。

井本委員

ありがとうございます。

五十嵐委員長

ありがとうございます。今の質疑応答の意味はおわかりでしょうか。今、国が地方創生の国家戦略を打ち出しておりまして、県、それぞれの市町等が将来の人口ビジョンというのを明示して、公表しております。その中に、産めよ増やせよの時代ではございませんが、出生率を上げる努力、そういったものを検討に入れて、何とか人口の減少を抑える、そんな努力を各市町等が計画をしております。その見込みと申しますか、それは今回のデータの中には含まれていないということでございます。

ほかに何か御質問、御意見ございますでしょうか。人口動態、よろしいでしょうか。

この地区別の地図ですね、5ページですけれども、皆さんそれぞれ団体の代表という形で来られている方もおられると思いますが、同じ小城市の中でもかなり違いがあると。これが協働のまちづくりを進める上で難しい要素の一つです。全ての地域で人口減少が厳しい、高齢化が厳しいわけでもなく、場所によっては新興住宅地で転入者がふえているところもございます。地域によって年齢構成、そういったものの違いもございます。そういったことも踏まえながら、それぞれの小学校区単位くらいでやると、やはり一つの単位として考えやすいというようなことも検討の内容に含めてはございます。よろしいでしょうか。

それでは、人口関係のところを踏まえて、いろんな課題を出して、この委員会で検討をしてみました。資料の3-2、それから3-3、このあたりで、これまでの委員会での検討内容の紹介と、それを踏まえてリーフレット、協働のまちづくりを進める上でのリーフレットを作成いたしました。これで完成しているわけではなくて、こういう方向性でさらに検討を深めていきたいと思いますというリーフレットになります。この委員会では、このリーフレットの記載内容等も踏まえながら、さらにいいものをつくり上げていく、そういった役割を担っているというふうに理解されればよろしいのかと思っております。

何か御質問ございますか。資料3-2、3-3。よろしゅうございますか。継続委員の方々、間違っているところありませんか、大丈夫ですか。こんなこと決めた覚えはないぞとか、大丈夫ですか。では、一旦ここで、また後で質問がある場合には受け付けをいたします。

(2) 平成28年度 小城市協働によるまちづくり事業について

五十嵐委員長

それでは、議事の2番目、「平成28年度小城市協働によるまちづくり事業について」ということで、資料4を用いて事務局より説明をさせていただきます。

池田市民協働推進係長

それでは、議事の2番目、「平成28年度小城市協働によるまちづくり事業について」、資料4で説明します。

1ページ目、平成28年度の協働によるまちづくり事業の経過報告をご覧ください。

まず、市役所内で職員研修を2回予定しておりましたけれども、平成27年度に五十嵐先生に全職員対象に研修をしていただいていることもありましたので、今年度は生涯学習課、特に公民館の職員の方を対象に、五十嵐先生に「協働によるまちづくりと公民館の役割」という内容で研修を10月31日に開催する予定をしております。

続いて、地域との協働体制庁内検討委員会ですけれども、作業部会の委員に今までも随時、検討委員会にオブザーバーとして出席をしてもらい、関係各課と連携を図っているところで

す。
次からは市民・団体対象に、まず今回開催しております検討委員会、今年度3回程度ということで計画をしておりましたけれども、なかなか計画通りに進んでいないということもありまして、第1回目の開催が今の時期になったということもありますが、今後、今年度以降の開催時期等について検討をしていく必要があると思っています。

ピンク色で網掛けしているのが新規に実施している事業です。まず、地区の区長会等説明をしていますが、なかなかイメージがわからないと思いますので、地区の代表、区長さんを連れてまちづくり協議会に先進視察に行っています。佐賀市では、全体の4分の3ぐらいですが、各地区でまちづくり協議会が設立されています。佐賀市のほうにどういった経緯でまちづくり協議会が設立されているのか、実際にまちづくり協議会を設立し運営をされていらっしゃる川上校区まちづくり協議会で実際にお話をお聞きしました。視察には全校区の中から1名以上、30人に参加をしてもらっています。

その次、協働によるまちづくりワークショップですが、今年度4地区で計画をしておりました。4月の全体区長会の時に協働によるまちづくりを進めて行くにあたり、先ほどお話ししましたリーフレットをお渡しして、5月の各校区の区長会で、まず地区の未来を考える

ワークショップを実施しませんかとお話をして回りました。今のところ2地区から手が挙がっています。1地区目が岩松地区で7月16日に開催をしています。2地区目が台風の影響で日程が延びたのですが、三里地区で11月6日に予定しています。

各校区の区長会にどうでしょうかという働きかけはしているのですが、なかなか開催が難しいという話が多いです。

一番下の地域のまちづくりモデル事業ですが、今年度1地区を予定しています。どの地区をモデル地区とするかという事ですが、協働によるまちづくりのワークショップを実施した地区で、今年でいいますと、岩松地区と三里地区になるかと思いますが、ワークショップなどを通して地域のことを考え、まちづくり協議会の設立を考えていきたいという地区に対してモデル事業を実施していきたいと考えています。平成29年1月以降ぐらいからの実施になるかと思っています。

2ページ目をご覧ください。6月27日に川上公民館に川上校区まちづくり協議会の視察に行った報告です。参加されたのは30人という先程お話ししましたが、市役所からも6人参加し計36人でお話を聞きました。

佐賀市の地域コミュニティづくりの取組みについて、市役所の担当課から話をしてもらって、参加と協働によるまちづくりのDVDを見せてもらい、実際にどういった取組みをされているのかを公民館の館長さんにお話をさせていただきました。

参加された方にアンケートを取っています。まちづくり協議会の組織、取り組みは「だいたい理解できた」が多く、右下、居住地区での「まちづくり協議会」の必要性では「必要」と考えられている方は60%いらっしゃいます。また、次のページの、ワークショップ等の開催意向ですが、48%が「開催したい」、また32%が「検討したい」と回答されていますが、なかなかワークショップの開催には結びついていないというのが現状です。

下のほうには自由記載をまとめています。

次のページは岩松地区のワークショップのまとめです。

7月16日土曜日の夜、岩松小学校の体育館で開催をしています。岩松地区の住民の方が34人、小・中学校の関係者が14人、託児の方も2人参加をしてもらっています。また、放課後児童クラブ連絡会からファシリテーターの補佐ということで6人参加をもらいました。岩松地区の住民の方は34人ですが、関係者含め総勢で60の方が参加をされています。

ファシリテーターを五十嵐先生にお願いして、実施をしました。

ワークショップのイメージがつかない委員さんもいらっしゃるかと思いますが、岩松地区で実施したワークショップの手法は、四、五人ぐらいのグループをつくって、そのグループでテーマについて話をする。また席がえをして情報共有をしてもらいながら、参加の皆さんで地域の未来のことについて話をしてもらいました。岩松地区の魅力的なところや、困っているところは？それを伸ばすには改善するにはどうしたら良いかなど、表にしていますが、ピンク色が魅力的なところ、黄色が困っているところと色分けをして記載しています。様々な意見が出ていました。

感想として、アンケート結果を右下のほうに載せています。

皆さん、このような話し合いをしてよかったという意見が多かったと思っております。

平成28年度の事業経過報告ということですが、やはり地区の区長会等で話をしておりますが、ワークショップの実施をすること自体も難しいというお話をされている状況です。

以上で議事の2番目、「平成28年度小城市協働によるまちづくり事業について」説明を終わります。

五十嵐委員長

今年度実施してきたこと、これから実施していく予定のことを含めて御説明をいただきました。何か御質問、御意見ございますでしょうか。役所としてやっていること、当然役所がサポートしますけれども、市民、団体向けにやっていることについての御説明でした。それと、すぐ近いところの佐賀市の川上のまち協への視察、それから、ここ地元岩松小学校区で行われたまちづくりのワークショップの様子についての説明でした。

ワークショップをやりたいと手を挙げるところが少ないというのは、やはりワークショップが何たるかのイメージがつかない人が多くて、私はワークショップというのは「イベントとして楽しいですよ」ということをいつも住民には言います。会議ではない、ワークショップというのは、僕はゲーム感覚でもいいと思っているんですが、とりあえず自由に何でも話せる場、そういったもので意見出しをしましょうということの会議、ワークショップは楽しいということを盛んにあちこちで住民が、特にNPOの方々が宣伝していただけると、ちょっとは盛り上がるのかなとは思いますが。

何か御質問、御意見ございますでしょうか。ございませんか。

井本委員

私ばかり言って済みません。28年度の、今から実施されるということはわかったのですが、

この28年度の先進地視察、それから五十嵐先生がなさったワークショップの報告等を見ると、すごく前向きな御意見がかなり出ていて、やはりそういう場に出てくる人というのは意識が高いなというのはよくわかるのですが、実は前のほうの話なんですけれども、市民にアンケートを取られているでしょう。どういう方々に対してかよくわからないのですが、その中身と、評価している積極的な自主性あふれる何かやりたいという人たちとの落差とか、そういったものというのは知っておいたほうがいいのかと思って、ぜひお願いします。

五十嵐委員長

アンケートの結果は、今日資料としては配っておられないけれども、市民アンケートと行政区アンケートと活動団体アンケートをやっていますね。そのアンケート結果の概要が、今回ここに出ている参加者の評価とまずどれくらい近いものなのか、かなり外れているのか、そういったことについての多分確認の質問だろうと思います。

池田市民協働推進係長

市民アンケートは、2,000人の方を無作為抽出で男女年代により均等に分けアンケートを郵送し、返送された回答を集計しております。その設問内容は、まちづくり協議会設立を前提とした設問ではなく、「今どのようなまちづくり活動に参加していますか」、「活動を活発にするには何が必要だと思いますか」、「より良いまちづくりを進めるために行政、市民がやるべきことは」というようなアンケートで、今検討しているワークショップやまちづくり協議会についての内容は、アンケートの質問項目には入れていなかったです。

井本委員

いや、とはいっても、何か連動するものって多分どこかにある気がするんですよ。つまり、どういうことかということ、ワークショップを呼びかけてもなかなか実現しないというような話があるわけじゃないですか。けど.....

熊谷企画政策課長

済みません、市民アンケートの結果を今すぐ覚えてはいないんですが、地縁団体、消防団やボランティア団体さんにアンケートを取って、ちょっと聞き取りも兼ねてなんですけども、ここと連動しているなと個人的に思っているのは、担い手がいない。参加者がだんだん少なくなってきて、会の存続自体が難しくなっている。婦人会さんとかもそうだったのですが、ほかの団体とかもお話を聞いていると、活動は一生懸命やっているけれども、「参加者が少ない、若い方の参加が少ない、この先どうなっていくんだろう。担い手どうなっていく

んだらう」という不安があるというのは、ここに参加してくださった、先進地に行ってくださいの方のこれから何らかのコンフル剤じゃないですけど、どうにか組織などをつくり直してやっていかないと、今やっていることの継続すら難しくなるんじゃないかという危機感がありになったというふうに見ています。

そこで、では新しくどうすればいいのかがみんなわかっていない状態、模索している状態、まだそんなに小城市のほうは、人口を見ていただくとわかるのですが、そこまで少子・高齢化は大きく何かに影響するということではないんですね。それは全体的なことです。でも、個別の地域に目を向けると、だんだん担い手、何とか役をやってもらいたいと思うけど、やってくれる人がいないとか、そういう状態がちらほら、だんだん聞こえてくるようになってるので、「何かせんといかんね、でもどがんしてよかかわからんね」という立ち位置はなかるうかというふうに、今担当のほうとしては考えています。

井本委員

ありがとうございます。

五十嵐委員長

僕がちょっと補足すると、アンケートの中でいつも、いろんなアンケート、この種のアンケートでよく共通するんですけど、やはり住民は知らない、どこでどんな活動をしているのか、そもそも知らないという人たちがかなり多いと。自治会長さんだとか、それぞれの団体の方は一生懸命広報しているんでしょうけれども、実際それがなかなかわからない、わかりにくい、参加のチャンスがなかなか出てこないとか、そういったふうに感じておられる方は結構多いというふうに私は理解をしております、そういう情報の発信の仕方だとか、自分たちの身の回りでどういうことが起こっているかということの問題点を共有する方法だとか、そういったものが必ずしも十分ではないという印象は持っています。

そういった状況の中で、こういう小学校区を単位にして、ちょっと組織をいじってみると大きな突破口になるのではないかなと、そんな印象はあります。

どうでしょうか、アンケートの概要の結果、それを郵送でもいいので、委員さんに送っていただけますか。

池田市民協働推進係長

はい。

五十嵐委員長

後日、皆さんのお手元に郵送をさせていただきます。

ほかに御質問、御意見ございますか。よろしいでしょうか。

(3) 平成 29 年度以降 小城市協働によるまちづくり事業について

五十嵐委員長

それでは、議事の 3 番目、「平成29年度以降小城市協働によるまちづくり事業について」、資料 5 で御説明をお願いいたします。

池田市民協働推進係長

それでは、議事の 3 番目、「平成29年度以降の小城市協働によるまちづくり事業について」、資料 5 で説明をします。

平成29年度以降ですが、職員研修を実施しながら、庁内の協働体制を整えていくため地域との協働体制庁内検討委員会を開催していきます。

市民・団体に向けては、検討委員会を引き続き来年度も 3 回程度予定をしています。当初予定は、29年度中に提言ということを考えておりました。しかし、ワークショップやモデル事業が実施できていない状況で、29年度に提言は難しいのではないかと考えており、状況を見ながら提言を平成30年度に遅らせることも考えていかないといけないのではないかと考えております。

続いてまちづくり協議会の先進地視察ですが、市役所から一方的に話をしても分かりにくいと思いますので、視察を実施し、実際にどういった活動をされているのかを聞いていただくことも必要だと感じていますので、来年度以降も先進地視察を予定しています。

次に、協働によるまちづくりワークショップですが、今年、岩松と三里地区で実施しますが、来年度以降もワークショップ実施の働きかけをしていきたいと考えております。

最後に、地域のまちづくりモデル事業ですが、一番上の矢印は、平成29年の 1 月以降にモデル事業を実施していきたいという話をしましたが、スムーズに行けば平成29年度の中盤から後半にかけて、モデル地区で協議会が設立されていく状態になるのではないかと考えています。平成28年度からモデル事業を 1 地区で実施しながら、平成29年度に新たに 1 地区モデル事業を実施し、その 2 地区の状況を見ながら提言を考えて行くことになるかと考えています。

そして、その提言を受けて一番下の青色の矢印になりますが、平成31年度以降事業を実施

していく事になります。

これで、「平成29年度以降の小城市協働によるまちづくり事業」について説明を終わります。

五十嵐委員長

ありがとうございます。

29年度以降、確定したものではございませんけれども、イメージとして、こういった計画で進めたいということでございます。

今年度、この委員会としてどこまで課題を整理し、次に展開をしていくかという委員会の検討内容、これが大変重要な役割を担っているというふうに私は理解をしております。

この29年度以降の計画につきまして何か御質問、御意見ございますか。ちょっとスピード感がなさ過ぎるとか急ぎ過ぎだとか、その判断さえ多分難しいだろうと思いますが、御質問、御意見ございませんか。よろしいですか。

初めて資料等で説明を受けた方もおられますので、なかなか御理解いただけないとは思いますが、全体を通して何か御質問、御意見をいただきたいと思いますが、ぜひ継続委員の皆さんには2年間の委員会での検討等の経験もございますので、継続委員の方々から何か御意見等がいただけるとありがたいのですが。お願いします。

真子委員

ここにまちづくりのリーフレットがありますけれども、この中で地縁団体としての婦人会なり老人クラブというのが重要な位置だろうと思うんですね。ところが、現実的には組織がない。老人クラブも、特に校区単位でみると、例えば、私のところの小城町の晴田地区になると、老人クラブもない、婦人会もない。あっても個人で参加している方ぐらいしかいないと。そうすると、まちづくり協議会を組織しようとするときに、その方たちの横のつながりがないんですね。ですから、この協議会を立ち上げる中でも相当厳しいものがあるんじゃないかと思う。だから、ここをもうちょっとどうにかしないと先に進んでいけないのではないかという気がしますけれども。

五十嵐委員長

現状において、例えば、今まで婦人会はあったけれども、婦人会は解散したというようなところが全国あちこちにあります。県内にもあります。あるいは老人会はあるんだけど、高齢者がふえているのに老人会の組織加入率がむしろ下がっているとか、今言われたように、身近に老人会がないとか、そういった問題は当然でございます。

ちょっとここで確認していただきたいのは、このリーフレットの開いて右側のまちづくり協議会のイメージ図ですけれども、一番下に青色で既存の構成団体の例示をしています。この既存の構成団体、あるものは当然そのまま継続して構わないのですけれども、そういったものを1回目的別に組みかえて、上の緑にあるような、例えば部会に再編成したらどうかという提案なんですね。例えば、今言われるように、老人クラブはないんだけれども、高齢者の親睦団体が必要だねということになれば、この新しい協議会の中に高齢者の親睦団体、その名前が老人クラブになるかどうかは考えていただいていいんですが、そういう部会をつくれれば、今までなかったんだけれども、でき上がる。そういったものが必要だという意見があれば、そういう団体をつくっていただく、部会をつくっていただくと、そういう意味になります。

あるいは消防団にしても、消防団の担い手が少ない。暮らしの安全・安心を守るためにはもう少し大きな組織が必要だねとなったら、消防団も含めて暮らしの安全・安心にかかわる部会を設置する。小学校区単位ぐらいで考えると、人はそれなりに集め得るという考え方がこの図の内容になります。

この水色のところにあるのは、今ある団体、今ない団体があれば、それは新しい協議会をつくる中で、必要であれば新たに部会のようなものをつくってやっていくと、そういうイメージになります。

ほかにございますか。どうでしょうか、継続委員の方々。お願いします。

石橋委員

継続させていただいているんですけれども、先ほど井本委員さんのほうから御質問があった点、地方創生の中での人口ビジョンの中で、合計特殊出生率を2.07まで上げていくというのが小城市のほうで示されているのですが、私、子育て支援と学童保育をやって、まさに産む世代の親御さんたちと接することが多いんですけど、このままじゃ絶対上がらないよねということが実感としてあります。であれば、やはり今産む世代が抱えている課題を先送りしないということが大事で、実は私たちが思っていた課題を全部送ってしまったということで、すごく後悔の念もあって子育て支援させていただいているのですが、三里のワークショップで五十嵐先生が最後におっしゃったんですけど、非常に女性の参加が少ない、まして子育て世代なんかほとんど来れなかった時間帯だったということを考えると、このまちづくり協議会のあり方の中に、これはこれで進めていいんですけれども、私はやはり若い女性とか、今、

子育てをする女性たちが集まりやすい時間帯に、ある意味今の課題を拾っていく、または学生、まさに小城市から出ようとかいう大学生かもしれませんが、高校生、中学生に特化したワークショップをしていかないと、先ほどアンケートの質問をされていたのですが、回答割合は、やはり20代が5%、高齢者のほうがどうしても多くなっている。40歳から44歳も5%、働き盛りも少ないということもあるんですが、小城市の傾向としては地域の関心は高いんですね。「ある程度関心がある」と「非常に関心がある」を合わせると7割近くになっているとか、「地域活動は行われていると思う」というのが5割を超えているとかいうことをあわせると、なかなか皆さん危機感を、自分の世代が終わればいいとは思っていないと思いますが、そこまで、この先どうなるという危機感を余り持っておられないというのもあるので、できれば、私が2年間言わせていただいたのは、まちづくり協議会の男女比をある程度決めたほうがいい、女性が半分入ったほうがいい。実際、女性のほうが寿命が長く、割合も女性が多い。やっぱりまちづくりはその割合に合わせていただけませんか。この検討委員会の女性の割合も2割ということなんですが、せめて3割とか、数合わせではないんですけども、実際に男女比なり若者の数とか上がると自由な意見がもっと出やすいので、既存の枠ではなくて、せっかくここまで2年間させていただいて、小城市の取り組み、自分はみやき町に住んでいるのですが、相当進んでいると思うんですよ。まだ小さな町はなかなかそこまでいっていないので、何かせっかく新しいクールを迎えますので、抜本的な小城市ならではの取り組みをどうかしていただきたいなと思いました。

五十嵐委員長

ありがとうございます。

地区開催のワークショップ、いろいろ努力をして、年齢層、性別、そういったバランスも十分考えて開催するように働きかけ等はしているんですけども、実際、開催の時間だとか、そういったものはやっぱりかなり影響しているのか、偏っているなど、それは私も全く同感です。

であれば、ある層をターゲットにして、その方だけを集めたワークショップのようなものも同時開催して、あったほうがいいのかという御意見です。十分参考にすべきかと思しますので、事務局、検討してください。

ほかに何かございますか。お願いします。

光石委員

前回から委員ですけど、3つあります。いみじくも西九州大の先生がおっしゃったように、人口減少の対策、いろんな小城市の発展の協働によるということはしていますけど、それを含むかどうかはわかりませんが、小城市の発展に対する対策とか、そういう問題が入っていないんですよ。

それともう1つ、人口構成の変化、これも先ほど言われたように、こんなに減っているのかとびっくりしたとか、こういうものかと。あんまり減少はしていないのかと思うんですけど、事務局としては人口減少の変化をどういうふうに捉えてあるのか。緊急度をどの程度に考えられているのか。それに応じて、こちらの委員会も対応していかないといけないんじゃないかなと思います。

2番目に、勉強会とありましたけど、勉強会とはどういうものか。前期ですかね、委員会に出席させていただいたんですけど、物すごいスピードなんですね。委員は皆ついていけないんですよ。だから、部会とか委員も勉強していかないとついていけないから、やっぱり勉強会というのを費用の問題も出てくるかもわかりませんが、ボランティアでもいいかもわかりませんが、この委員会と別個、勉強会をしていかないと、とてもじゃないけど追いつけないと思います。

それから3番目に、一番最後の前回の委員会で、非常に盛り上がったところで終わったんですよ。その中で、まちづくり協議会のイメージと先ほども言われたんですけども、これはまだ一番下のいろんな市民団体とか老人クラブ、消防団、ここの欄が非常に不十分だと思うんですね。農林漁業関係とか商工業関係とか入れていただいたんですけど、もっと少子・高齢化で医療とかそういうところも入れないと、医療の代表者が入らないと話が進まないかと思うんですね。

だから、3つ問題点として挙げさせていただきたいと思います。特に人口構成の変化を事務局はどういうふうに捉えてあるかということは意見を聞かせていただきたいと思っています。

五十嵐委員長

ありがとうございます。

1点目は、協働によるまちづくりを進める委員会、あるいは事業だけれども、人口対策だとか経済対策だとか、関連施策との関係、そのあたりについての御質問だと思います。

2点目は、先ほど説明していただいた人口減少、高齢化の状況を行政としてはどのように

評価しているかということです。

3番目は、かなり総合的な取り組みということになるので、委員としても、やはりもう少し勉強する機会があったほうがいい、増やすべきだという意見でした。

この3点について、事務局、返答をお願いします。

熊谷企画政策課長

ありがとうございます。

先ほどの人口減少に対する対策等、この委員会の役割がどうなのかというふうに考えますと、まずここでは地域の皆さんと一緒にになってコミュニティ、自分が生活している一番の基盤である地域コミュニティのあり方や方向性を検討するということを考えておりますので、人口減少に対する対策というのは、先ほどからまち・ひと・しごとという言い方をしておりますが、小城市にも総合戦略というのをつくりまして、そちらのほうで特化してやっていこうと思っております。それが1点です。

それから、人口減少に対しての事務局、あるいは行政のほうの感じ方としては、もうこれは一言で言って非常に危機感を持っております。会議等の全ての挨拶で「少子・高齢化になっています」と言っても、なかなかぴんと来ないということがあったので、資料で行政区ごとの人口減少の図をつくらせていただきました。4月からずっと区長会のほうで御説明をするときに、普通余り協働によるまちづくりと言っても、なかなか「そうですか」と言うだけなのですが、この色分けした地図を校区ごとに大きくして、区長さんのほうにお話しますので、非常に皆さん関心を高く持っていただいております。この人口減少というのが実際どういうものなのかというのを市民の皆さんと行政が共有しないと、どういう対策が一番有効的であるかというのがなかなか先に進まないと考えております。

まず、大前提として、人口が減るということ。それから、働く人間が少なくなるということは税収が減るということ。それから、希望である子どもたちの数が減るということ。経験値をたくさん持ってある方の高齢者がふえることは非常にいいと思うのですが、じゃあ、全体的な医療費はどうなるんだろうとか、そういう課題が今後出てくると思うので、少子・高齢化、人口減少ということをもう少し市民の皆さんときちんと共有できればというふうに今考えております。

3点目のこのイメージ図ですが、いろんな団体が入ったほうがいいんじゃないかという御意見ですが、これは前回の検討委員会の中でもたくさん意見が出ておりまして、これはあ

くまでも、最初に説明するときのイメージ図だというふうに事務局としては捉えています。ですから、地域によっては、いろんな団体の方が入ってこられる。もうこれからふえても全然構わないですし、ここに載っていないから入れないではなくて、済みません、一番左に小さく「など」と書いているのがなかなか見えにくいですが、それでも、「など」が本当は一番書かなきゃいけないことなのかもしれません。地域によっていろいろな団体が活動されています。旧4町でも全然違いますので、そういう色々な団体の方々と手を結んで、地域の活性化のためにどういうことが出来るか考えられる組織になれば一番いいのではないかというふうに考えています。以上です。

五十嵐委員長

はい、ありがとうございました。

池田市民協働推進係長

すみません、いいですか。

五十嵐委員長

はい。

池田市民協働推進係長

勉強会という話がありましたけれども、今日この検討委員会を少し早く終了して、五十嵐先生から、実際に佐賀市の取り組みなどを含めたお話をしてもらいたいと思っています。

そして、今年度新しく検討委員会の委員になられた方もたくさんいらっしゃいますので、前々年度は佐賀市に、昨年度は大野城市に視察に行っていますので、今年度も後半に1回ぐらいは先進地視察に行ければとように思っております。

五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。

光石委員

今の勉強会ですけれども、創立記念とか、何周年とか、市やゆめぷらっとではいい研修があっているんですね。総務部長さんとよく同席するんですけれども、開催の連絡もないし、委員の皆さん誰も見えておられないということはないでしょうけれども、ほとんど見えてないんですね。すごくいい話があるんですね。だから、それを踏まえてこの話をしていくと、すごくいいものができるんじゃないかなと、そういう連絡もしてもらいたいと思っています。

それと前回のまちづくり協議会のイメージ図の一番下のブルーのところ、その他ということと言われたんですけど、それもやっぱり時間切れで、ここでもう少し固めないと、いい制度ができないんじゃないかなと。もう少しこの一番下を再度練っていったらいいまちづくりができるんじゃないかなと思います。

五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。

勉強会に関連して、身近に市内で開催されている、そういう研修会のような情報を委員さんにも積極的に流してくださいという御意見です。

それと、まちづくり協議会のイメージの既存の活動団体、組織、こういったものはさらにつけ加えるべきものはつけ加えるべきだという御意見がございましたので、それは検討委員会の中で反映させる努力をさせていただきます。ありがとうございます。

ほかに。はい、どうぞ。

大坪委員

こんにちは、大坪と申します。

三里のワークショップに参加させていただきまして一つ課題だと思うのは、先ほど石橋委員が言われたように一つのターゲット層とかありましたけれども、私は一つのターゲット層としては、小児、幼稚園や小学生の保護者の方の意識に合わせた、やっぱり今は余り顔を合わせて話さない。皆さんもう社会性が少なくなっていっちゃるので、そういった人をどう育てていくか、どう参画させていくかが一つ課題だと思いますので、ちょっと今は全然見えません。

もう一つは、ワークショップとしても、我々も社協として地域、区長さんと課題を話したり、住民さんと話すんですけど、区は区なんですよ。お互いの区で課題整理して、手をつないで一緒にしましょうという意識が全然ないです。ですから、区長さんを集めて対話していく、また関係機関なども集めてみる。まず区長さんを集めて、地域課題を共有してもらって、お互い手にとっていこうよというようなきっかけづくりをしないと先に進まないかなと私は感じました。以上です。

五十嵐委員長

はい、ありがとうございます。

これから進めていく上で、特に子育て世代の方々の意見、考えをどうやってうまく反映さ

せていくのかという御意見。それから、行政区間の連携、それをもう少し強くすべきだという御意見でございます。事務局、よろしいですか。

井本委員

ちょっとそこで確認だけなんですけれども、小学校区単位と区の単位で、例えば、区が半分に分れているとか、そういった状況ってあるんですか。またいでいるとか。

(「小学校区」と呼ぶ者あり)

だから、そこら辺の分け方って非常に難しくて、どこかのモデル地区だけだったらいいんだけど、それをあまねく全部やろうとするといろいろ問題点とかも……

五十嵐委員長

そういう事例がありますか。

池田市民協働推進係長

三日月町で小城町の学校に近い子どもたちが、三日月町から小城町に通学しているところもありますが、その地区の環境は他の地区と若干違っている所はあるかと思えます。

井本委員

いやいや、もう興味関心だけでいいです。

池田市民協働推進係長

そこで、協議会の単位は概ね小学校区としていますので、話し合いの中でどうしていくのかと考えて行かなければならないところだと思います。

井本委員

だから、そこら辺はちょっとうまく調整しないと、おっしゃるような横と手をつなぐというのがなかなか難しかりょうと思うんですね。

五十嵐委員長

今の質疑応答を私聞いていて感じた点が1点ありまして、市が総合計画をつくり、まち・ひと・しごと、地方創生の総合戦略をつくり、色々な目標を立てていきます。その時に、同じように委員会があって、各界代表の人たちの意見を聞きながら当然進めてきているのですが、実際にそれを進める段階になったときに、どれだけ市民がその情報を知っていて、どれだけ市民がそれに積極的にかかわってくれるのか、そのところが一番ポイントで、そういった機能を果たす意味で、こういうまちづくり協議会のような組織、これを機能させる、そういうのが一番大事なのではないかなと、その様に私は思っています。

各界からいろんな意見を聞いて、いろんな施策をつくっていくんですけども、それが市民目線で考えたときに、自分のものとしてなかなかリアリティーを感じられない。あるいは自分は当事者として参画できそうな感じもしない、そういった諦め感みたいなものが一方ではあるんだろうと思います。

このまちづくり協議会というのは、そういった人たちがやはり気楽に入って、一人のメンバーとしてかかわっていけるような組織にしなければいけないということで、そこが一番大変で難しいところ。それで時間がかかるということです。それでも私、この後勉強会の講師でプレッシャーがかかってきましたけれども、やはり諦めてはいけません。これからの地域づくりは、やはり諦めてはいけないのだというふうなところをちょっと後でまた皆さんと御意見が交換できればいいと思います。

ほかにございますか。よろしいですか。

五十嵐委員長

それでは、第1回目の委員会の議事としてはここで終了させていただきます。では、事務局にお返しします。

4 . 閉 会

熊谷企画政策課長

皆様どうもありがとうございました。

先ほど担当からアナウンスがありましたように、ここで一旦協働によるまちづくり検討委員会は終了いたします。本日はありがとうございました。